

街道を歩く

東海道:10今岡町一阿野一前後町 外れ

千(戦)人塚

永禄3年(1560)桶狭間の戦いで破れた今川方の戦死者2500を曹源寺2世快翁龍喜和尚が埋葬、供養した塚という。



阿野一里塚

両側一対残る。塚の中に森市雪の歌碑
"春雨や 坂をのぼりに 馬の鈴"
ここから先は前後への坂道、道端に山桜
が点在し馬の鈴音も快く響く
森市雪は愛知郡下一色の出。



中津藩士の墓

寛保2年(1742)豊前国中津藩の家臣が参勤を終え国許に帰る途中池鯉鮒宿にて遊女のこと
で喧嘩となり今岡村付近で渡辺友五郎が牟礼清五郎を斬りつけ、自分も切腹した。村人が
洞隣寺に墓を作り供養した。ところが生前の恨みか2の墓は何度直しても反対側に傾いたとか
後に友五郎の子孫から茶湯料の寄進があり寺では位牌を作り今でも供養しているという。



中津藩士2人の墓と
めったいくやしい墓(右端)

めったいくやしいの墓伝説

洞隣寺にあまり美しくない一人の下女がおりました。
後に近くの医王寺に移り仕えることになりました。
この寺の住職は美男青年住職でありましたので
一目ぼれ、青年僧は仏法修行の身、見向きもせず
寄せつけませんでした。片思いの下女は食が進ま
ず、やがて憤死しました。これを聞いた洞隣寺の
和尚が亡骸引きとり葬ったが墓石から青い火の玉が
浮かび医王寺の方へ流れいくとか、油の燃える音が
したり、"めったいくやしい" 声となったりしたとか
女の情念の恐ろしさが語り継がれてきた。

洞隣寺

天正8年(1580)水野忠重の開祖として創建
門前に常夜燈(寛政8年:1796年建立)
境内に「めったいくやしい」伝説の墓と
中津藩士2人の墓がある。



東海道:三河・尾張9宿一⑩



烏丸光廣歌碑



境川橋

阿野町
かつては水瓜が名物

烏丸光廣は江戸初期の公家、細川幽斎から
古今伝授を受ける。家光の歌道師範。
"うち渡す尾張の国の境橋
これやにかわの継目なるらん"

烏丸光廣歌碑

境川
(当時尾張側:板橋、三河側:土橋)

シキシマパン

今川町西

今川町東

国道下の地下道
通って横切る

三河と尾張の国境

富士松駅

乗願寺

椎の木樹齢800年

ひもかわうどんの碑

今岡町

洞隣寺

工業団地

ひもかわうどんの碑
かつての名物、芋川うどん→ひもかわうどん
[弥次・喜多]
此ところは、いもかはと言、めんるいの名物
いたって風味よしときよて
"名物のしるしなりけり往来の
客をもつぐいも川の蕎麦"
好色一代男 巻の2旅の出来心
世之介江戸への途中、駿河でみそめた
若狭、若松の姉妹と一時ここで
平打ちうどんのうどんやを始めたと言う。



平成 14 年 04 月 20 日

あきやま